

執筆者紹介

堀田 和義 岡山理科大学工学部准教授

種村 隆元 川崎大師教学研究 所教授
大正 大 学 准 教 授

加納 和雄 駒澤大学 仏教学部 講師

倉西 憲一 大正 大学 非常 勤 講師
豊山派総合研究院宗学研究所研究員

佐々木 大樹 川崎大師教学研究 所研究員
大正 大 学 専 任 講 師

駒井 信勝 川崎大師教学研究 所研究員
智山伝法院常勤研究員

別所 弘淳 川崎大師教学研究 所研究員
智山伝法院常勤研究員

佐竹 隆信 川崎大師平間寺
教化部 教 学 課 課 員

『川崎大師教学研究紀要』規程

第一条【総則】

- 一 川崎大師教学研究（以下、研究所という）は、研究成果を發表するために『川崎大師教学研究紀要』（以下、『紀要』という）を發行する。
- 二 『紀要』は、原則として年一回、三月二十一日の發行とする。

第二条【投稿内容と資格等】

- 一 『紀要』の掲載原稿は、投稿原稿と依頼原稿からなる。
- 二 『紀要』への投稿原稿は、「研究論文」及び「研究活動報告」（以下、投稿論文等という）をその主たる内容とする。

- 三 投稿資格は、研究所所長、教授、研究員、相談役、並びに教授・研究員による研究グループ参加者に限る。但し、所長が投稿を認めた者については、この限りではない。

- 四 投稿論文等は、未發表のものに限る。また、外部において審査中若しくは掲載予定の論文等は、二重投稿とみなし、『紀要』における發表は認めない。

第三条【投稿要領】

- 一 投稿論文等は、和文または英文とする。和文の場合の文字数は、一万二千字から二万字までとする。また、四百字詰原稿用紙の場合は、三十枚から五十枚までとする。英文の場合は、概ね八千語までとする。

- 二 投稿の締切は、『紀要』発刊前年の九月末日とする。
- 三 引用添付する図版が著作者若しくは所蔵者の承認を必要とする場合は、あらかじめ執筆者が掲載許可を得なければならぬ。なお、その場合に掛かる経費は、執筆者の負担とする。

- 四 投稿者は、研究者の倫理規範として別途定める『川崎大師教学研究 研究倫理綱領』を遵守しなければならない。

第四条【編集委員会と査読】

- 一 『紀要』發行にあたり、研究所に編集委員会を置く。
- 二 編集委員会は、編集委員長及び編集委員若干名により構成する。編集委員長、編集委員は教授、研究員のうちから所長が依頼する。また、編集委員の任期は三年とする。但し、再任は妨げない。

- 三 投稿論文等は、編集委員会が原則として査読する。

四 査読の結果に基づき、編集委員会は、執筆者に投稿論文等の修正を求めることができる。

五 編集委員会は、必要に応じて、別途外部へ査読を依頼することができる。

六 編集委員会は、編集過程その他全般について、研究所「教授会」(以下、教授会という)に報告するものとする。

七 教授会は、編集委員会が行う査読の報告を受け、掲載可否を決定し、「川崎大師教学研究所会議」(以下、研究所会議という)に承認を求める。

第五条【著作権の取扱】

一 掲載された依頼原稿、並びに投稿論文等(以下、掲載論文等という)のデータ利用権は、研究所に帰属するものとする。但し、執筆者が研究所の同意を得て、利用・公開することを妨げるものではない。

二 掲載論文等が、第三者の著作権、その他の権利及び利益を侵害した場合、執筆者は、これに掛かる一切の責任を負うものとする。

三 掲載論文等は、研究所が電子ファイル化を行い、ウェブ上で公開できるものとする。

第六条【校正】

執筆者による校正は、二回までとする。この場合、原

稿の誤字、脱字等の基本的訂正を除き、加筆、修正は認めない。また、印刷工程における内容上の修正についても認めない。

第七条【原稿料、掲載料等】

投稿論文等に対する原稿料の支払い、掲載料の徴収は原則として行わない。

第八条【規程の改廃】

この規程の改廃は、教授会の審議を経て、研究所会議において決定するものとする。

第九条【その他】

この規程に定めのない事態が生じた場合には、教授会の審議を経て、所長がその対応を判断し、その結果を研究所会議に報告するものとする。

附則 この規程は、平成二十七年七月一日より施行する。

附則 この改正の規程は、平成三十年三月二十一日より施行する。

行する。

編集後記

おかげさまでもちまして『川崎大師教学研究所紀要』第4号を発刊することができました。

今回の『紀要』にも研究所教授および研究員の論文以外に、外部の先生から投稿いただいたいております。堀田和義先生（岡山理科大学）の論文は、インドのサンスクリット語文学作品『ヴィクラマ王の冒険』の和訳注です。仏教はインドで生まれた宗教ですので、その背景には広い意味でのインド文化があります。インドで成立した経典や論書を理解するためには、インド文化の理解が必要な時があります。インドの文学作品は、古のインドに関して、私たちに多くを教えてくれるものです。しかしながら、サンスクリット語文学作品の和訳は、ごく一部を除いてなかなか手にすることができません。その意味におきまして、堀田先生の今回の論文は貴重な基礎資料となるものです。

その他、今回の『紀要』には、真言密教に関するもの、真言宗所依の經典に関するもの、インド密教に関する論文が掲載されています。そのどれもが、和訳やテキスト校訂を中心とした基礎的な研究です。このような研究は、

派手さはないものの、今後の研究の発展に大きく寄与するものと確信しております。本紀要においては、今後とも基礎的な研究を提供することで、弘法大師教学、ひいては仏教学の分野に貢献していきたいと考えております。今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜れば幸いに存じます。

（種村隆元 記）

平成三十一年三月二十一日発行
川崎大師教学研究所

紀要（第4号）

発行

川崎大師教学研究所

発行代表者

廣澤隆之

編集者

佐藤隆一

〒二一〇〇八二二

神奈川県

川崎市川崎区東門前一―九九

電話（〇四四）二九九―五一一一

印刷

モリモト印刷

〒一六二〇八一三

東京都新宿区東五軒町三一―一九